2026 年度

野洲市教育研究所だより

No.13
2026.9.14

夏季研修　Part Ⅱ



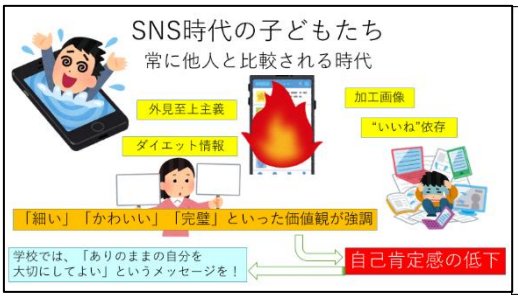
○教員のための性教育　７月３０日（木）コミセンしのはら

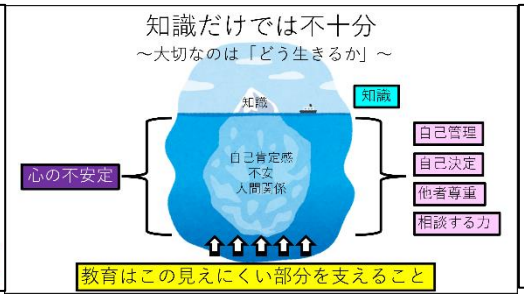
小中学校教員や幼稚園教諭合わせて２１名の参加がありました。

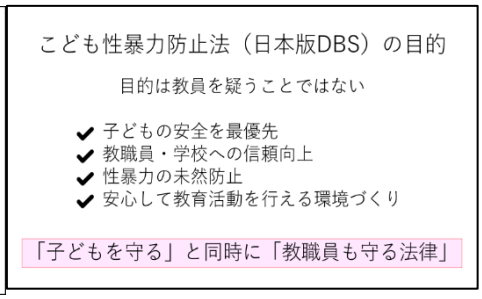
「性教育」「性トラブル」と聞くと少し身構えてしまいがちですが、生涯を健康に生きていくために今、子どもたちに必要なことは何かを根本に、体や心の成長のこと、性ホルモンからくる男女の違い、こども性暴力防止法のとらえ方など学びました。

性教育は自己理解、コミュニケーション力（相談できる力）、自分や相手を思いやる力、人権教育などあらゆるものにつながっています。

参加された先生方からも今回の研修を受けて、「しんどい子へ声のかけ方も違うものになりそう」「職員としても、１人の女性としても、親としても今後に生かしていきたい内容だった」などと感想をいただきました。







（講師：滋賀県医師会会長　髙橋　健太郎先生の講義スライドより）

○ロイロノート研修　初級編・中上級編

７月 22 日（水）篠原小学校

ロイロノート初級編として 18 名の先生方と研修を実施しました。株式会社 LoiLo の青野幹太様を講師に迎え、「授業で使える基本操作」を学びました。参加者同士のアイスブレイクや実際の操作演習を通して、「共有ノート」「個別のノート」「提出箱」などの操作方法を学んでいきました。研修中には参加者から「おぉ～」「なるほどー」「これはいいな」などのつぶやきがたくさんこぼれていました。



共有ノートで
アイスブレイク

８月３日（月）野洲中学校

ロイロノート中上級編として、１１名の先生方と研修を実施しました。株式会社 Loilo の後藤すみれ様を講師に迎え、「個別の共有ノート」「提出箱の添削（Excel 出力）」、「素材ライブラリ」のうち、「提出箱の添削」では、児童生徒が提出したものに、テキストやスタンプで添削できることや、添削した内容が Excel で集計されて出力されることなど、リリース１、２か月のまさに新機能を体感しました。また「個別の共有ノート」では、先生が作ったノートを児童生徒に配付することで、ノート名をつくることや、一つ一つ資料を送る手間が省かれること、そして一人一人の作業の進捗状況をモニタリングできることなどに、参加者はよさを感じていました。研修会の最後には、活用の手助けとなるよう「素材ライブラリ」があることを紹介いただき、授業だけでなく、学級経営等でも使えるものがあることを知りました。



操作と説明を通して学ぶ
参加者



グループごとに
操作体験中

○部落差別問題学習基礎講座　８月４日（火）コミセンみかみ



小・中学校から１４名の先生方が参加してくださいました。

前半は、部落差別の実態や歴史的背景、差別解消に向けた現代の取り組みなど、部落差別に関する基礎的なことについて、映像資料を見ながら学びました。

後半は、部落差別問題学習の進め方やポイント、取り組む上での留意点について確認しました。また、野洲市人権学習プランに掲載してある共通教材を用いながら、どのような授業展開や発問をすればよいのかについて意見を交流しました。

限られた時間ではありましたが２学期以降の実践につなげることのできる有意義な研修となりました。

〈参加者の感想〉

- 第０ポイントから第７ポイントまでのおさえるべきところや背景などを詳しく知ることができ、学びにつながった。２学期から始まる第１ポイントから、子どもたちと一緒に考える授業づくりをしていきたいと思った。
- 今回の研修をとおして、差別意識や偏見は今も根強く残っており、人の心が変わらないと差別は決してなくならないということを学びました。差別は「される側」の問題ではなく「する側」の問題であるという認識を持たせることを、今後大切にしていきたいと思いました。
- どの差別の問題にしても「する側」に問題があること、人の心が差別を生み出しているという意識をしっかりと持たせたいと思います。また、歴史を学ぶのではなく、歴史から学んで自分はどうしたいのか、どうすべきなのかという自分に矢印を向けられるようにしたいです。
- 今ある差別が歴史の連続性の中にあること、それを踏まえて子どもたちが今ある問題と向き合っていく土台となる態度を育てていくことが大切であると感じた。２学期以降も人権学習の時間があるが、教師も社会の諸問題と向き合う姿を示し、子どもたち一人ひとりが社会の一員として身近な問題と向き合う経験を増やすことで、子どもたちの人権感覚を育てていきたい。
- 今年度、人権について考えるときに、やはりまずは大人（教師）の人権感覚を高めることがとても大切だと感じた。自分も含めて、まずは正しい知識をしっかりと身に付けること、そしてそれをどう子どもたちに伝えていくかを考えていかなければならない。

○特別支援教育夏期研修　８月５日（水）コミセンしのはら



川島先生のお話

「通常学級で生かす具体的な支援の工夫と連携」という演題で、花園大学教育学部初等教育学科の川島民子先生にお話しいただきました。お話の主な内容は、「支援を必要とする子どもについて教師が理解する」「周りの子どもたちにどう伝え、保護者にどのように理解を求めていくのか」「学級づくりや保護者対応の観点から、実際にどのような言葉かけや説明が有効か」の３点で、野洲市の児童生徒の実態に合わせて講演いただきました。

受講者からは「1学期、子どもとかかわる中で本人の困り感をなんとかしたいと思いながら、うまくいかないことばかりでした。行動として出ている部分の背景や原因をもう一度しっかりと探り、今よりも良い状態になれるようにしていきたいです」「合理的配慮に追われるのではなく、まずは基礎的環境整備を充実させることが大切だと思いました。配慮の必要な子どもにだけ支援するのではなく、自分に必要な支援を自分で選んで受けられるようにすることが、自立につながると思っています」「通級指導などを利用している児童の場合、通級担当と連携しながら、子どもの願いを知ることもできるかもしれないと思った」などご自身の実践を振り返るきっかけになったり、２学期以降の実践に生かしたりする様々な感想がありました。また、市内で１００人近く受講していただきました。多くのご参加ありがとうございました。



ワークショップの様子

まなび野洲チャレンジ！ 50

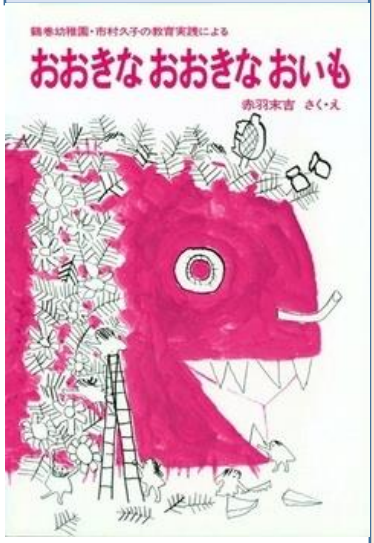


今回はこの問題です。正しい答えの番号はどれでしょう。
答えは、最下段に載せています。

滋賀県には、19 市町の自治体があり、野洲市もその一つです。
では、ここで問題です。
野洲市と隣接する自治体は、いくつあるでしょうか。
また、どの自治体でしょうか。

①2つ　②3つ　③4つ　④5つ

おすすめの絵本



『おおきなおおきな　おいも』
原案：市村 久子　　作・絵：赤羽 末吉　　出版社：福音館書店

楽しみにしていたいもほり遠足の日、雨が降って延期になってしまいました。残念がる子どもたちは大きな紙においもを描きはじめます。紙をつなげてつなげて、おいもの絵はどんどん大きくなります。大きなおいもは、ヘリコプターで幼稚園に運びます。プールに浮かべて船にしたり、かいじゅうにみたてて遊びます。たくさん遊んだあとは、天ぷら、焼きいも、大学いも、たくさん作っておいもパーティ！ 大きなおいもをめぐる子どもたちの空想がつまった絵童話です。

発売から 40 年以上経ってなお読まれ続けているこのお話。実際の園での遊びからヒントを得て作られたのだそう。自分たちの想像を超えたとんでもなく大きなおいも。そのインパクトは一度読んだら忘れることはありません。「いもざうるす」や「おいもパーティ」、印象に残っているシーンは沢山あるけれど、その全てがシンプルな線画。そこに効果的に使われているのが、サツマイモを思わせる紫一色のみというのも驚かされます。それでも子どもたちの生き生きと動き回る様子や、先生の役割、主役であるおいもの桁外れな存在感が伝わってくるからです。



『魔女のシュークリーム』
文・絵：岡田 淳　　出版社：ＢＬ出版

岡田淳さんから、このたび低学年向けのお話が届きました。

主人公は、シュークリームが大好きな男の子、ダイスケ。どのぐらい好きかといったら、将来シュークリーム屋さんになりたいと考えるほど。ある日、おねえちゃんの分にまで手をつけようとしておかあさんに怒られ、家を飛び出し公園へ。こかげに座りこみながら、「百倍の大きさのシュークリーム」を食べることができたら、どんなにいいだろうと考えます。百倍ってどのぐらいの大きさになるのでしょう？ちょっと想像つきませんね。

そんなダイスケの前に現われたのがカラスと黒ネコ。2 匹はダイスケにいきなり話しかけてきて、お願いがあるというのです。そのお願いというのが、巨大なシュークリームを食べること。シュークリームに目がないダイスケにとってはなんておいしい話！しかしおいしい話にはかならず裏が？いったいどんな理由が隠されているのでしょう？本のタイトルが『魔女のシュークリーム』ですから、何か魔女がらみの不穏な話なのでは…？

まなび野洲チャレンジ答え　④
近江八幡市、竜王町、湖南市、栗東市、守山市